

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月 6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0370300196
法人名	社会福祉法人 三陸福祉会
事業所名	認知症高齢者グループホーム さんりく
所在地	大船渡市三陸町越喜来字所通25-7 (電話) 0192-44-1144

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	盛岡市本町通3丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成21年1月6日

## 【情報提供票より】(20年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	18 人	常勤	14人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

※小規模多機能型事業所と兼務

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大船渡市国民健康保険越喜来診療所、小松歯科医院
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岩手県沿岸の南北に続くリアス式海岸の南側、旧三陸町の街中にあるグループホームさんりくは、向かい側には母体法人が運営する特別養護老人ホーム、デイサービス等があり、平成15年の開設時に建設されたホームの建物は隣接して小規模多機能型事業所が設置されており、事務室を通じて行き来することができる。廊下は車椅子が2台並んで通れるほど広くとられており、共用空間も非常に広い。窓が大きく造られ、天窗からも日が差し込んでくるためとても明るい雰囲気ができている。事業所の周囲には保育園、幼稚園、小中学校、診療所がある他、市の保健センター、市役所支所があり、これらとの交流が行われている。また、周辺は住宅や商店が立ち並んでいるが、地域住民と利用者が顔なじみの方も多いため、住民からの理解や配慮がされている。利用者の多くは介護度が進んでいるため、なかなか外出や作業等が難しい状況であるが、熱心な職員により手厚い介助を受けながら、明るく生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回実施された外部評価においてトイレ等への手すりの設置については、小規模多機能型事業所の設置に併せて予定通りに設置されていることを確認した。また、介護度の進行に伴う体の機能の低下を考慮し、居室の電灯のON、OFFを紐でできるようにされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価の作成にあたっては職員全員がそれぞれ作成し、リーダーがまとめる形で作成されている。内容が理解できなかった場合は職員会議等の場で確認しており、運営推進会議にも提出されている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	今年から小規模多機能型事業所を設置したこともあり、合同で実施されている。参加者に行政や地域の代表の他に駐在所、消防署署長が入っており、有事の際には協力いただける体制が整っている他、今年からは家族の代表に参加していただき、意見を頂くようにしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	玄関には意見箱を設置し、来所する際には意見や要望を聞きだそうとしているが、家族側からは特に要望が無く、家族会の結成についてホーム側から呼びかけても消極的である。しかし、家族側の要望や意見を汲み取る活動は活発に行われており、アンケート調査を行い、必要に応じて電話で連絡を取るなど家族側と交流を持つため努力されている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者の殆どが旧三陸町出身者であることから、利用者と周辺地域の方とは旧知の方が多い。ホームとは日常的に交流のある方もおり、おやつや野菜、魚の差し入れを頂くこともある。町内や保育園、幼稚園や小中学校の行事に法人全体で招かれることもあり、学芸会や運動会などの鑑賞に出かけているが、ホームに来所されることは少なめである。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は母体法人の運営規定を受け継いだものであるが、家庭的な雰囲気を作り、地域や家族との結びつきを意識しているため、ホームの理念としても適切である。	○	事業の運営方針として掲示されているため、地域に示す理念とは異なっている。しかし、ホームの理念としてはよいものであるため、理念として掲示していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営方針を事務室内の壁に掲示されている他、机にも貼り付けられているため室内では常時目にする機会がある。また、毎朝ミーティングの際に唱和されており、職員は常に意識して家庭的な雰囲気を作りだしている。必要に応じて行われるカンファレンスの際にも唱和されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会や老人クラブには加入していないものの、地域で行われる祭等のイベントや、学校等の行事にはよく招かれて参加している。地域の方がホームへ来所する機会は少ないが、ホームが招けば来てもらえる。また、利用者や地域の方々とは顔なじみである方が多いこともあり、野菜やおやつなどの差し入れが頻繁にある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を行うことは職員にとって非常に負担になるが、自分達の仕事内容を見直す機会になると考えている。自己評価の作成にあたり職員全員が個別に評価し、責任者がまとめている。自己評価と外部評価の結果は運営推進会議に提出するほか、玄関に掲示して一般の方にも見てもらっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隣接している小規模多機能型事業所と合同で実施しているため、委員の人数は多人数となっており、2ヶ月に1回実施している。委員には地域の代表の他、駐在所、消防署、歯科医や家族の代表も参加しており、ホームの状況についての報告や委員からの提案、質問等活発に意見や情報交換が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	近くに保健センターと市役所支所があり、市の保健福祉課が常駐しているが、規模が縮小されてきているため以前に比べると交流の機会が減っている。しかし、運営推進会議の委員になってもらうなど、なるべく多く交流の機会を設ける努力がなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の生活について職員が毎日1行の記録を付けており、毎月家族への報告と一緒に送付されて好評である。広報は年に4、5回発行されており、家族以外にも周辺地域に配布されている。利用者の現金の取り扱いについては現金出納帳を付けており、毎月家族へ報告している他、来所時にも職員が口頭で家族へ報告している。利用者の家族からホームへの入金現金で行われており、1ヶ月に一度は必ず訪れることになっている。	○	利用者毎に職員が毎日一行分の記録を付けている「一行日記」が家族からの好評を得ている。記録される内容は利用者の問題を挙げているものではなく、楽しく生活する様子を端的に書き出しているため、毎日の生活の様子が家族にもおおまかに把握できるようになっている。なかなか顔を合わせることができない家族のためにも、今後も続けていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員との会話の中で意見や要望を伺っているが、家族からの要望は特に無い。玄関には意見箱を設置しているが、利用された実績が無い。また、ホームで家族会の結成を検討したことがあるが家族側が消極的であるため、結成には至っていない。ケアプラン作成の際にも意見、要望の確認は行われている。職員側からは頻りに声をかけているが、特に問題は無いようである。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を法人の一員として養成するために法人内で職員の異動は行われているが頻繁には行われておらず、必要最小限に抑えられており、徐々に利用者にならざる配慮されている。現在までのところ、異動を行っても特に問題は起きておらず、利用者の動揺は無い。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修については案内があり次第、職員の派遣を検討しているほか、県のグループホーム協会及びブロックでの研修に交替で参加している。また、法人内で研修を実施しており、敷地内にある特別養護老人ホームとデイサービス等の職員と合同で実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修での交流がある。法人外部の方の研修は受け入れてはいるが、利用者へ感染症を持ち込んでしまう等の問題が出てきたため、現在ではホームの職員が他法人での研修は行っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始直後はなかなかホームに馴染むことができないため、職員と実家へ行ってみたり、家族や親戚が様子を見に来てもらうことによって利用者の心の安定を図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	天気がよく、暖かい時期はホームの庭で畑仕事をしたり、食事等の家事を協力して行い、共に生活を支える努力を行っている。就寝後には共用空間から全ての居室が確認できる位置に職員が詰めており、夜通しで利用者の安全を確認している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の介護度が進行していることもあり、意向を聞き取ることが難しくなってきたが、職員の努力により利用者の外出や生活に対する要望を聞き取るようにされている。また、センター方式の採用によって利用者の生活や要望を個別に詳細な情報を記録しており、個人毎に適切なケアを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員が作成に参加しており、毎日のミーティング、定期的なカンファレンスを通じ、利用者の生活の仔細を把握する努力が成されている。非常に煩雑であるが常に本人の意向を聞き取るようにしており、家族からの意見も取り入れるよう努力されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は通常3ヶ月で見直している。毎日のミーティングと定期的なカンファレンス以外にも必要に応じてカンファレンスが行われ、膨大な情報を基に利用者本人と家族の意向を取り入れて作成されている。作成した内容は家族にも確認してもらっている。	○	利用者の一日の様子や体調、食事、水分の摂取等が非常に詳細に確認できるようになっており、介護計画の作成に役立っていることが確認された。今後も続けていただき、家族の意向と利用者の意思を汲み取りつつより細かなケアが続けられるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出先が近いこともあり、職員が病院の受診や理美容室の利用に対応している。また、協力医の往診を受けており、ホームに居ながらインフルエンザの予防注射を接種することもでき、定期的に健康診断も行っている。家族がホームに訪れた場合、居室に宿泊することも可能となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの近所にある診療所を主治医としており、往診を受けることができる。診療所はホームの目の前にある特別養護老人ホームの隣にあり、ホームだけではなく法人の協力病院として了解を頂いているため随時対応可能である。また、協力医の歯医者がホームの向かい側にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に終末期ケアを実施した経験がある。利用者の多くがホームで終末期を迎えることを希望しているため、意向に沿う努力が成されている。職員には看護師がおり、近くの病院の協力を得て医療連携加算が取得されている。また、訪問看護ステーションと24時間の連絡体制が整っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	多くの個人情報を取り扱っているが、普段は事務室内の保管庫に収められており、鍵がかけられている。個人情報の管理にあたっては勉強会を行って理解を深めている。日常生活においては声のかけ方や羞恥心への配慮などが行われており、常に利用者への言葉のかけ方に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や風呂など、一日のスケジュールは大体決まっているが、本人の意向に沿う形でケアされている。利用者の体の機能の維持のため、職員による声かけが行われており、レクリエーションや散歩など、積極的に体を動かすことを意識されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成し、調理も職員が行っているが、後片付け等利用者も手伝える範囲で手伝っている。食事時には職員が各テーブルと一緒に食事を摂っており、食事介助が必要な方には職員が傍に座り、介助を行っている。また、午前と午後にはお茶の時間が設けられており、近所の方から頂いたお菓子が振舞われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	随時入浴可能であるが、1日置き程度の割合で午後から入浴している。毎朝バイタルチェックが行われており、利用者の体調を確認し、本人の希望を聞きながら入浴している。ホームの風呂は一般家庭用の物であるが、隣接の小規模多機能型事業所にある大きな柵風呂を利用することができる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の希望が少なくなってきているため、ホーム内でのレク活動に力を入れている。趣味活動等はあまり見られなかったが、全員で書を書いたり、職員主導で体操や合唱が行われている他、掃除、洗濯、食事の準備や片付けなど、できることを手伝ってもらっている。共用空間にある大画面のテレビを利用してカラオケも可能である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	以前と比べて外出の希望が少なくなってきている。できるだけ外出してもらうように職員からも声をかけており、車でドライブに出かけるなど、室外に出るよう配慮されている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は無い。日中は玄関に鍵をかけていないが、玄関の出入りが確認できるようにセンサーを取り付けている。夜間は防犯のため施錠している。就寝後は共用空間から全ての居室を見渡せる場所に職員が詰めて、夜通しで利用者の安全確認と、トイレなど問題があった場合はケアにあたっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事務室内に消防署直通の電話回線が設置されている他、消火器とスプリンクラーが設置されている。ホームは自治体が予想した津波の浸水被害地の外にあるが、年に1回、夜間に利用者、職員、消防署を交えて避難訓練をしている。また、年に1回、市の防災訓練が行われており、これに参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士に定期的に確認してもらっているが、若干カロリーが高めの食事になっている。しかし、食べ残す(あまり食べることができない)利用者もいるため、バランス的には問題が無い程度と考えられている。必要に応じて介護食にも対応している。また、水分補給は1日毎に摂取量が細かく確認されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開設から5年程経過した施設であるが、非常に広い空間が作られている。大きめのテーブルを3つ設置しても問題にならない程余裕のある食堂兼キッチンが中央にあり、畳の間には大型のテレビとコタツが設置されている。天井には天窓があり、日差しが差し込みとても明るい。車椅子が2台並んで通行可能な廊下には各所にトイレがあり、流し台も設置されている。廊下の奥にはひなたぼっこも可能なテラスがあり、とても居心地がよく作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面した部屋には塀が立てられているが、時間になると日が差し込んでくるように作られている。室内は床暖房になっているため、暖房器具の持ち込みが不要である。寝具はそのまま寝泊り可能な程度、ホームが用意している。また、家族が泊まることも可能である。個人の持ち物の持ち込みは少なく、やや殺風景な印象があるが、職員からはもっと私物を持ち込んでもらいたいとの要望がある。		